

## ■プロジェクト名■

XR(クロスリアリティ)等を活用した施設見学

## ■事業者名

株式会社エクシーズ



## ■実証実験の概要

### ○解決したい社会課題(背景・目的など)

水処理センター(下水処理場)や浄水場など、安心して生活するためには欠かすことができないインフラであり、その役割や仕組み等について、イベントなどを通じて発信しているものの、役割や仕組みについては市民の皆様には伝わりにくいといった課題がある。このプロジェクトでは、上・下水道の仕組みや直接目にする事ができない施設について、XR等の技術を活用した新たな施設見学等を体験することで、施設の魅力向上・理解促進につなげるための実証を実施するもの。

### ○実証実験の内容

#### ・実証実験期間

令和6年6月28日～令和7年5月31日

#### ・実証フィールド

「夏休み下水道たんけん隊」(令和6年7月開催)

「水道局おしごと体験『子ども水道調査隊～水道のヒミツを解明せよ～』」(令和6年9月開催)

「みらい建設フェスタ」(令和7年5月開催)

#### ・対象者

来場された市民(特に子ども向けにコンテンツを体感)



## ・具体的な内容

### ① 「裸眼立体視ディスプレイ(Looking Glass)」

3D モデルを立体表示し、体験者が手をかざして直感的に3D モデルをつかんで触れるインタラクティブ体験を提供した。

### ② 「WebAR リアルマンホール」

福岡市のマンホールデザインをマーカーとし、スマホカメラでマーカーを読み取ると、画面上に AR アニメーションが表示される。下水管の中にゴミや油を流してしまった場合、ゴミが詰まり、水が汚れ、溢れてしまう状況を AR アニメーションで表現し、不適切利用の注意喚起のメッセージを表示した。

### ③ 「WebAR 水の一生」

下水処理場、家、ポンプ場といった各水処理施設のイラストをマーカーとし、マーカーを読み取ると、各施設の働きや様子がわかるような AR アニメーションを作成。AR アニメーションの中では、水のキャラクターが移動し、雨が降る音、水が流れる音、説明用の音声・字幕を加えた。

## ■実証実験の結果

### ① 「裸眼立体視ディスプレイ(Looking Glass)」

体験者の多くがスムーズにインタラクティブ操作を体験し、中には操作に夢中になり長い時間体験する、一度離れて再度体験に訪れる様子が見られた。

### ② 「WebAR リアルマンホール」

マンホール内部の様子を実際に3D スキャンした素材が使えたことは、普段見えないものが体験できるという点で今回の実証目的に合致しており、体験者の反応も良好だった。体験後に、内容について道路下水道局スタッフに質問している親子も見られた

### ③ 「WebAR 水の一生」

アニメーションの音や説明文の音声などが効果的だった印象で、想定以上に食い入るように体験する様子が見受けられた。

## ■問い合わせ先

株式会社エクシーズ(092-452-0762)

道路下水道局施設調整課(092-711-4516)

水道局技術企画課(092-483-3198)